

呑酸(ドンサン)ってなに？ 病気？

これから年末に向け忘年会だ、やれ、年が明ければ新年会、外での飲食などの機会が多くなると思います。昔、こんな歌が流行りましたね。♪分かつちやいるけどやめられない♪ ついつい暴飲暴食、時が過ぎると「呑酸・胸やけ」症状がでて悩まれる方が多くなります。これがもともと「逆流性食道炎」と言う病気につながるのです。

「胸やけ」は、ご存じの通り、胸が下から上へと向かって熱くなって焼けるような感覚が起こり、ヒリヒリした痛みや違和感、不快感が伴います。食後や食べすぎ、脂っこいものや辛いものを食べたとき、アルコールを飲んだときなどに起こりやすい症状です。一方、「呑酸」は、酸っぱいものが、のどや口の中にこみ上げてくる感じがして、この症状が起こると、のどの奥が焼けるような感覚になって、何回も唾液を飲みこんだり水を飲んだりして症状が消えるまで不快感が続きます。この他には、つかえ感、胸痛、ゲップ、胃もたれ等様々な症状が現れると、これが逆流性食道炎の疑いが強くなります。

逆流性食道炎は、命にかかわる重篤な病気ではありません。しかし、下図に示す通り、胃液の逆流による症状の多くは食後や夜間に起こりやすく、胸やけがして食事が楽しめない、夜ぐっすり眠れない、症状が鬱陶しくて元気がでないなど、生活の質(QOL)が著しく低下します。海外の調査によると、治療をしていない逆流性食道炎の患者のQOLは、狭心症の患者のQOLより低いという報告もあります。また、逆流性食道炎が重症化するほど、QOLはますます低下し続けると言われています。さらに逆流性食道炎が進行すると、食道に潰瘍ができたり、まれに食道腺がんになるケースがあるのです。(日本消化器病学会HP参考)

逆流性食道炎は欧米に多く、日本には少ないとされてきた病気ですが、肥満の増加、食生活の欧米化、高齢化などに伴い、この20年ほどで日本でも患者数が急増しています。いまや、3人に1人が胸やけなどの不快な症状に悩んでいるという“新国民病”といえる状態になっています。

逆流性食道炎の治療では、「薬物療法+セルフケア」が効果的です。

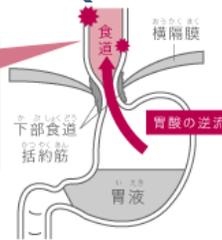
薬物療法と同時に、さまざまな食事と生活改善を組み合わせることによって、胸やけなどの不快な症状は改善されていきます。薬の服用とともに再発頻度を減らすためにも、セルフケアはかせないものです。治療に使用される内服薬には、胃酸の分泌を抑制する薬剤、胃や食道の食べ物を送り出す運動を進めさせる薬剤、食道・胃の粘膜を保護する薬剤など多くの種類がありますので、症状に合わせた治療、投薬がなされます。



クリニック名古屋ちくさヒルズ
林祐司 院長

ストレスが胃液の食道内逆流を増加させるわけではありませんが、ストレスがあると、胸やけや胃痛、胃もたれが起こりやすくなります。脳がストレスをキャッチすると、胃の機能をコントロールしている自律神経のバランスが乱れ、胃の動きが悪くなる「運動機能異常」や「内臓知覚過敏」が起こることがありますから、**早めの受診をお勧めします。**

- ・強い酸である胃酸によって炎症を起こす
- ・活性化したタンパク質分解酵素が傷つける





財団榊副会 理事長
林 衆治 先生

幹細胞治療について

幹細胞治療という治療自体については、一般の方にはなかなか馴染みが薄い言葉ですが、そもそも「幹細胞」とはいったいどのような細胞なのか、ここから詳しくお話してみましょ。

幹細胞は、様々な種類の細胞に分化する能力を持つ細胞のことを言います。幹細胞は、胚や胎盤、成人の体内に存在する**骨髄や脂肪組織**などから採取することができます。

幹細胞は、神経細胞、筋肉細胞、心臓細胞、血液細胞など、多様な種類の細胞に分化することができ、再生医療や細胞治療の分野で特に昨今では注目される度合いが高まっています。

また、幹細胞は自己複製能力を持ち、同一の幹細胞が継続して存在し、細胞分裂によって同じ能力を持つ細胞を生成することができるため、多くの研究分野でも注目されています。

又、特に脂肪組織から採取する**脂肪由来幹細胞**は、様々な種類の細胞に分化する能力を持っています。例えば、脂肪細胞、骨細胞、軟骨細胞、筋肉細胞、神経細胞、血管内皮細胞などに分化することができます。そのため、**損傷した組織や器官を修復するための細胞治療や再生医療の分野で有望な材料**として位置付けられています。

また、脂肪由来幹細胞は、免疫系にも影響を与えることが知られていて、脂肪由来幹細胞は、免疫系の細胞を調節し、炎症を抑制する働きがあるため、**自己免疫疾患や慢性炎症性疾患の治療**にも用いられています。

さらに有効な効果を期待される患者様には**幹細胞塊治療**という治療方法も可能となっています。この幹細胞塊治療は、数千個の幹細胞を塊にして、注射する治療であり、幹細胞に比べて10倍程度の効果があることがわかっています。当クリニック東京虎ノ門CORは、クリニック名古屋ちくさヒルズと同様で幹細胞塊を作成する特殊なデバイス(TASCL)を用いて、均一で臨床応用可能な幹細胞塊を自施設で作成しています。

細胞移植の場合ですと細胞の半数以上が死んでしまうため、産生されるサイトカイン・成長因子の量が少なくなり再生度が少なくなってしまうますが、幹細胞塊の場合ですと細胞が組織表面に生着するため、産生されるサイトカイン・成長因子の量が多く再生度が高まり治療効果が顕著にみられます。

幹細胞(塊)注射治療の適応疾患としては

変形性関節症、靭帯断裂、スポーツ外傷、関節周囲炎、脊椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、変形性脊椎症がありますのでお悩みの方一度ご相談ください。

当クリニックの幹細胞(塊)注射治療の流れとしては

受診診察

症状をお伺いして
医師が状態を確認
します

細胞採取

患者様の腹部より
少量の脂肪を採取
します

細胞加工

当施設内細胞培養施設に
て脂肪から幹細胞を抽出
して幹細胞を増殖します

注射による投与

増殖した幹細胞を
ゆっくりと部位に注射
します

健康の知恵袋



近年の医療の世界の進歩には本当に驚かされます。自分の細胞を外で増やしてまた自分に戻すなんて！
次回は美容・ヘルシーエイジングとやらの世界のお話を聞きたいですね。

広報紙

発行

「医療法人榊副会クリニック通信」

医療法人財団榊副会 クリニック名古屋ちくさヒルズ
〒464-0858 名古屋市千種区千種2-24-2
千種タワーヒルズ1F

ご意見はこちらまで info@clinic-chikusahills.com

編集・発行

医療法人財団榊副会 クリニック名古屋ちくさヒルズ
編集委員会(原稿責任者 川島和信)

発行日

毎月1日